

『下流老人：一億素老後崩壊の衝撃』藤田孝典(朝日新書、2015. 6)

「その論点のまとめと可視化(「札寄せツール」による図示)」(中川 徹、2015. 9)

(1) はじめに

皆さんに知ってほしいことがある

日本に「下流老人」が大量に生まれている

「下流老人」の存在が日本社会に計り知れないインパクトを与えるだろう

「下流老人」とは、普通に暮らすことができない「下流」の生活を強いられている老人

現在の高齢者だけでなく、近く老後を迎える人々にも貧困が忍び寄っている。

「一億総老後崩壊」といった状況を生み出す危険性が今の日本にある。

「下流老人」という言葉に高齢者をバカにしたり、見下す意図はない。

高齢者の逼迫した生活とその裏側に潜む問題を明らかにしたい。

NHKスペシャル「老後破産」(2014)を放送。

生活に困窮する高齢者の実態の一部が明らかにされた。

そこに至る社会背景、雇用、福祉の問題などに踏み込まれなかった。

問題の全体像を示した文献、報道がまだない。

日本の高齢者の格差と貧困は極めて深刻。(各社の報道以上に)

格差と貧困が今後も一層広がっていくことが予想できる。

これは、安易な脅しや警告というレベルのものではない。

「高齢者の貧困＝下流化」は実際にすでに始まっている。

「高齢者の貧困＝下流化」は、これから誰にでも起こり得る身近なこと。

平均的な給与所得があるサラリーマン(ホワイトカラー労働者)もはや例外でない

現役時の平均年収が400万円前後(ごく普通)でも、高齢期に相当な下流リスクが生じる

普通に暮らしてきた人が、老後に下流に転落してしまう事態が、はっきり想定されている

老後もこれまでと同様に安心して暮らしたいと思っても、そうできない可能性が極めて高い。

本書では、「下流老人」＝「生活保護基準相当で暮らす高齢者及びその恐れがある高齢者」と定義する

下流老人はいまや至るところに存在する。

日に一度しか食事をとれず、スーパーで見切り品の惣菜だけを持ってレジに並ぶ老人

生活の苦しさから万引きを犯し、店員や警察官に叱責される老人。

医療費が払えないため、病気を治療できずに自宅で市販薬をのんで痛みをごまかす老人。

誰にも看取られることなく、独り静かに死を迎える老人。

これらの高齢者の姿は、下流老人のほんの一端である。

下流老人の実態や背景は、驚くほど知られていない。

あるいは、恐ろしすぎて無意識のうちに目を背けているのかもしれない。

わたしは、埼玉県で12年間、下流老人を含めた生活困窮者支援を行うNPO法人の活動をしてきた。

その過程で、多くの生活困窮者の惨状を目の当たりにしてきた。

これらの実体験を踏まえて、問題の深層に迫っていく。

実態を理解し、対策の一部でも知れば、(読者)みずからの老後の備えもできるだろう

現在推定600万～700万の「下流老人」がいる

本書で、「下流老人」の実状、社会的背景、未来予想、を記し、

自己防衛策も提示する。

本書の構成：

1章：「下流老人」とは何か、懸念される問題は何か

統計データ、資料、相談事例などから問題提起を行う

2章：下流老人の日常生活。4人の例示

下流老人に至るまでの生活や背景に迫る。なぜ下流に転落するのか？

3章：下流老人に至る代表的なパターン。

多くの共通点がある。リスク要因を分析し、防止策、解決策の手がかりにしたい。

4章：下流老人を生み出し、放置している、私たちの意識・感情・内面に焦点を当てる

なぜ今まで解決すべき課題として挙がってこなかったのか。

5章：下流老人を生み出す社会システムや社会福祉制度の機能不全を考察する。

下流老人を放置する制度上の問題点は何か

6章：下流老人にならないために、わたしたちが個人レベルでできることは？

考えておくべきこと、備えておくことを考える

7章：制度や政策に関する(個人的な)提言を行う。

読者による議論の発展を期待する。

多くの読者とともに、解決策を模索していきたい。

『下流老人：一億老後崩壊の衝撃』藤田孝典(朝日新書、2015. 6) (0) はじめに

「その論点のまとめと可視化 (「札寄せツール」による図示)」(中川 徹、2015. 9) 1. 抜粋文のラベル化

皆さんに知ってほしいことがある

日本に「下流老人」が大量に生まれている

「下流老人」の存在が日本社会に計り知れないインパクトを与えるだろう

「下流老人」とは、普通に暮らすことができない「下流」の生活を強いられている老人

現在の高齢者だけでなく、近く老後を迎える人々にも貧困が忍び寄っている。

「下流老人」という言葉に高齢者をバカにしたり、見下す意図はない。

「一億総老後崩壊」といった状況を生み出す危険性が今の日本にある。

高齢者の逼迫した生活とその裏側に潜む問題を明らかにしたい。

NHKスペシャル「老後破産」(2014)を放送。

生活に困窮する高齢者の実態の一部が明らかにされた。

そこに至る社会背景、雇用、福祉の問題などに踏み込まれなかった。

問題の全体像を示した文献、報道がまだない。

日本の高齢者の格差と貧困は極めて深刻。(各社の報道以上に)

格差と貧困が今後も一層広がっていくことが予想できる。

これは、安易な脅しや警告というレベルのものではない。

「高齢者の貧困＝下流化」は実際にすでに始まっている。

「高齢者の貧困＝下流化」は、これから誰にでも起こり得る身近なこと。

平均的な給与と所得があるサラリーマン(ホワイトカラー労働者)ももはや例外でない

現役時の平均年収が400万円前後(ごく普通)でも、高齢期に相当な下流リスクが生じる

普通に暮らしてきた人が、老後に下流に転落してしまう事態が、はっきり想定されている

老後もこれまでと同様に安心して暮らしたいと思っても、そうできない可能性が極めて高い。

本書では、「下流老人」＝「生活保護基準相当で暮らす高齢者及びその恐れがある高齢者」と定義する

下流老人はいまや至るところに存在する。

日に一度しか食事をとれず、スーパーで見切り品の惣菜だけを持ってレジに並ぶ老人

生活の苦しさから万引きを犯し、店員や警察官に叱責される老人。

医療費が払えないため、病気を治療できずに自宅で市販薬をのんで痛みをごまかす老人。

誰にも看取られることなく、独り静かに死を迎える老人。

これらの高齢者の姿は、下流老人のほんの一端である。

下流老人の実態や背景は、驚くほど知られていない。

あるいは、恐ろしすぎて無意識のうちに目を背けているのかもしれない。

わたしは、埼玉県で12年間、下流老人を含めた生活困窮者支援を行うNPO法人の活動をしてきた。

その過程で、多くの生活困窮者の惨状を目の当たりにしてきた。

これらの実体験を踏まえて、問題の深層に迫っていく。

実態を理解し、対策の一部でも知れば、(読者)みずからの老後の備えもできるだろう

現在推定600万～700万の「下流老人」がいる

本書で、「下流老人」の実状、社会的背景、未来予想、を記し、

自己防衛策も提示する。

本書の構成：

1章：「下流老人」とは何か、懸念される問題は何か

統計データ、資料、相談事例などから問題提起を行う

2章：下流老人の日常生活。4人の例示

下流老人に至るまでの生活や背景に迫る。なぜ下流に転落するのか？

3章：下流老人に至る代表的なパターン。

多くの共通点がある。リスク要因を分析し、防止策、解決策の手がかりにしたい。

4章：下流老人を生み出し、放置している、私たちの意識・感情・内面に焦点を当てる

なぜ今まで解決すべき課題として挙げてこなかったのか。

5章：下流老人を生み出す社会システムや社会福祉制度の機能不全を考察する。

下流老人を放置する制度上の問題点は何か

6章：下流老人にならないために、わたしたちが個人レベルでできることは？

考えておくべきこと、備えておくことを考える

7章：制度や政策に関する(個人的な)提言を行う。

読者による議論の発展を期待する。

多くの読者とともに、解決策を模索していきたい。

『下流老人：一億老後崩壊の衝撃』藤田孝典(朝日新書、2015.6) (0)「はじめに」
「その論点のまとめと可視化(「札寄せツール」による図示)」(中川 徹、2015.9) 見出し文の文の

皆さんに知ってほしいことがある

日本に「下流老人」が大量に生まれている

「下流老人」の存在が日本社会に計り知れないインパクトを与えるだろう

「下流老人」とは、普通に暮らすことができない「下流」の生活を強いられる老人

現在の高齢者だけでなく、近く老後を迎える人々にも貧困が及び寄っている。

本書では、「下流老人」=「生活保護基準相当で暮らす高齢者及びその恐れがある高齢者」と定義する

現在推定600万~700万の「下流老人」がいる

「一億総老後崩壊」といった状況を生み出す危険性が今の日本にある。

高齢者の逼迫した生活とその裏側に潜む問題を明らかにしたい。

「下流老人」という言葉に高齢者をバカにしたり、見下す意図はない。

下流老人はいまや至るところに存在する。

日に一度しか食事をとれず、スーパーで見切り品の惣菜だけを持ってレジに並ぶ老人

生活の苦しさから万引きを犯し、店員や警察官に叱責される老人。

医療費が払えないため、病気を治療できずに自宅で市販薬をのんで痛みをごまかす老人。

誰にも看取られることなく、独り静かに死を迎える老人。

これら的高齢者の姿は、下流老人のほんの一端である。

NHKスペシャル「老後破産」(2014)を放送。

生活に困窮する高齢者の実態の一部が明らかにされた。

下流老人の実態や背景は、驚くほど知られていない。

あるいは、恐ろしすぎて無意識のうちに目を背けているのかもしれない。

日本の高齢者の格差と貧困は極めて深刻。(各社の報道以上に)

格差と貧困が今後も一層広がっていくことが予想できる。

これは、安易な脅しや警告というレベルのものではない。

「高齢者の貧困=下流化」は実際にすでに始まっている。

「高齢者の貧困=下流化」は、これから誰にでも起こり得る身近なこと。

平均的な給与と所得があるサラリーマン(ホワイトカラー労働者)ももはや例外でない

現役時の平均年収が400万円前後(ごく普通)でも、高齢期に相当な下流リスクが生じる

普通に暮らしてきた人が、老後に下流に転落してしまう事態が、はっきり想定されている

老後もこれまでと同様に安心して暮らしたいと思っても、そうできない可能性が極めて高い。

わたしは、埼玉県で12年間、下流老人を含めた生活困窮者支援を行うNPO法人の活動をしてきた。

その過程で、多くの生活困窮者の惨状を目の当たりにしてきた。

これらの実体験を踏まえて、問題の深層に迫っていく。

問題の全体像を示した文献、報道がまだない。

そこに至る社会背景、雇用、福祉の問題などに踏み込まれなかった。

本書で、「下流老人」の実状、社会的背景、未来予想、を記し、

自己防衛策も提示する。

実態を理解し、対策の一部でも知れば、(読者)みずからの老後の備えもできるだろう

本書の構成:

1章: 「下流老人」とは何か、懸念される問題は何か

統計データ、資料、相談事例などから問題提起を行う

2章: 下流老人の日常生活。4人の例示
下流老人に至るまでの生活や背景に迫る。なぜ下流に転落するのか?

3章: 下流老人に至る代表的なパターン。

多くの共通点がある。リスク要因を分析し、防止策、解決策の手がかりにしたい。

4章: 下流老人を生み出し、放置している、私たちの意識・感情・内面に焦点を当てる

なぜ今まで解決すべき課題として挙がってこなかったのか。

5章: 下流老人を生み出す社会システムや福祉制度の機能不全を考察する。

下流老人を放置する制度上の問題点は何か

6章: 下流老人にならないために、わたしたちが個人レベルでできることは?

考えておくべきこと、備えておくことを考える

7章: 制度や政策に関する(個人的な)提言を行う。

読者による議論の発展を期待する。

多くの読者とともに、解決策を模索していきたい。

読者の皆さんに知ってほしいこと

日本に「下流老人」が大量に生まれており、「一億総老後崩壊」といった状況を生み出す危険性が今の日本にある。

「下流老人」とは、普通に暮らすことができない「下流」の生活を強いられる老人

現在の高齢者だけでなく、近く老後を迎える人々にも貧困が忍び寄っている。

本書では、「下流老人」=「生活保護基準相当で暮らす高齢者及びその恐れがある高齢者」と定義する

現在推定600万～700万の「下流老人」がいる

高齢者の逼迫した生活とその裏側に潜む問題を明らかにしたい。

「下流老人」の存在が日本社会に計り知れないインパクトを与えるだろう

わたしは、埼玉県で12年間、下流老人を含めた生活困窮者支援を行うNPO法人の活動をして

その過程で、多くの生活困窮者の惨状を目の当たりにしてきた。

これらの実体験を踏まえて、問題の深層に迫っていく。

下流老人はいまや至るところに存在

日に一度しか食事をとれず、スーパーで見切り品の惣菜だけを持ってレジに並ぶ老人

生活の苦しさから万引きを犯し、店員や警察官に叱責される老人。

医療費が払えないため、病気を治療できずに自宅で市販薬をのんで痛みをごまかす老人。

誰にも看取られることなく、独り静かに死を迎える老人。

これらの高齢者の姿は、下流老人のほんの一端である。

NHKスペシャル「老後破産」(2014)を放送。

生活に困窮する高齢者の実態の一部が明らかにされた。

「下流老人」という言葉に高齢者をバカにしたり、見下す意図はない。

下流老人の実態や背景は、驚くほど知られていない。

NHKスペシャルも、そこに至る社会背景、雇用、福祉の問題などに踏み込まなかった。

あるいは、恐ろしすぎて無意識のうちに目を背けているのかもしれない。

問題の全体像を示した文献、報道がまだない。

日本の高齢者の格差と貧困は極めて深刻（各社の報道以上に）

「高齢者の貧困＝下流化」は実際にすでに始まっている。

格差と貧困が今後も一層広がっていくことが予想できる。

これは、安易な脅しや警告というレベルのものではない。

「高齢者の貧困＝下流化」は、これから誰にでも起こり得る身近なこと。

平均的な給与所得があるサラリーマン(ホワイトカラー労働者)ももはや例外でない

現役時の平均年収が400万円前後(ごく普通)でも、高齢期に相当な下流リスクが生じる

普通に暮らしてきた人が、老後に下流に転落してしまう事態が、はっきり想定されている

老後もこれまでと同様に安心して暮らしたいと思っても、そうできない可能性が極めて高い。

実態を理解し、対策の一部でも知れば、(読者)みずからの老後の備えもできるだろう

本書で、「下流老人」の実状、社会的背景、未来予想、を記し、自己防衛策も提示する。

本書の構成：

1章：「下流老人」とは何か、懸念される問題は何か

統計データ、資料、相談事例などから問題提起を行う

2章：下流老人の日常生活。4人の例示
下流老人に至るまでの生活や背景に迫る。なぜ下流に転落するのか？

3章：下流老人に至る代表的なパターン。

多くの共通点がある。リスク要因を分析し、防止策、解決策の手がかりにしたい。

4章：下流老人を生み出し、放置している、私たちの意識・感情・内面に焦点を当てる

なぜ今まで解決すべき課題として挙がってこなかったのか。

5章：下流老人を生み出す社会システムや社会福祉制度の機能不全を考察する。

下流老人を放置する制度上の問題点は何か

6章：下流老人にならないために、わたしたちが個人レベルでできることは？

考えておくべきこと、備えておくことを考える

7章：制度や政策に関する(個人的な)提言を行う。

読者による議論の発展を期待する。

多くの読者とともに、解決策を模索していきたい。

『下流老人：一億総老後崩壊の衝撃』 藤田孝典（朝日新書、2015. 6.30） (0) 「はじめに」

「その論点のまとめと可視化（「札寄せツール」による図示）」（中川 徹、2015. 9. 2） 「見える化」した要約版（2015. 9.11）

